

# 新ふくいの森林・林業基本計画（仮称）

## 骨子（案）

県産材活用課・森づくり課

# 目次

基本理念 「育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に」

## 重点プロジェクト

### 1 森を活かすプロジェクト

- ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進
- ② 新たな手法の導入による施業集約化の促進
- ③ 生産基盤の整備
- ④ 森林経営・管理を担う人材を育成

### 2 木を活かすプロジェクト

- ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大
- ② 県産材の家づくりの推進
- ③ 公共および民間施設の木造・木質化等の推進
- ④ 攻めの県産材の販路拡大
- ⑤ 新たな分野における利用拡大
- ⑥ 木質バイオマスの利用
- ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動

### 3 森に親しみ、森を守るプロジェクト

- ① 森林サービス産業による山村の活性化
- ② 地域資源である特産林産物のブランド力強化
- ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進
- ④ 緑と花の県民運動を永続的に展開
- ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進

## 【基本理念】

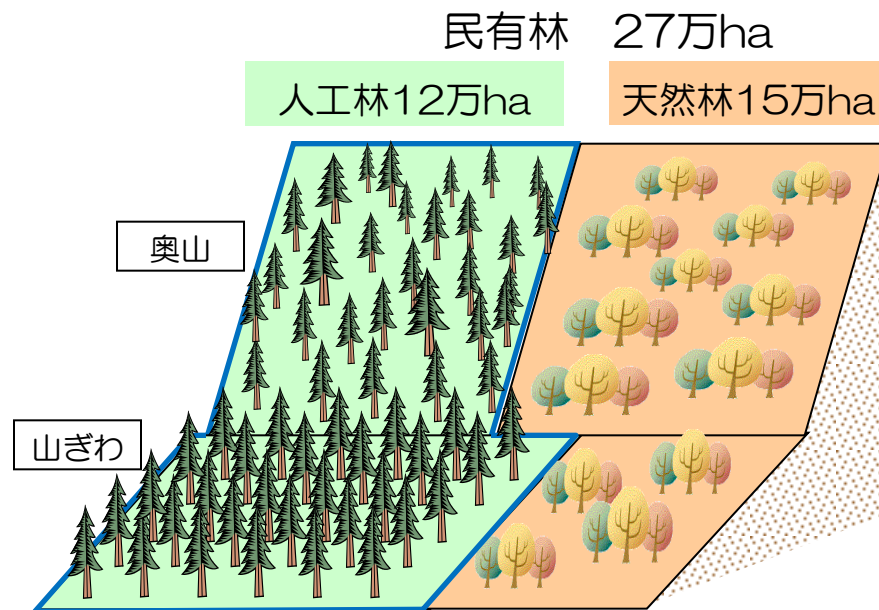
育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に

## 【目指すべき森林・林業の姿】

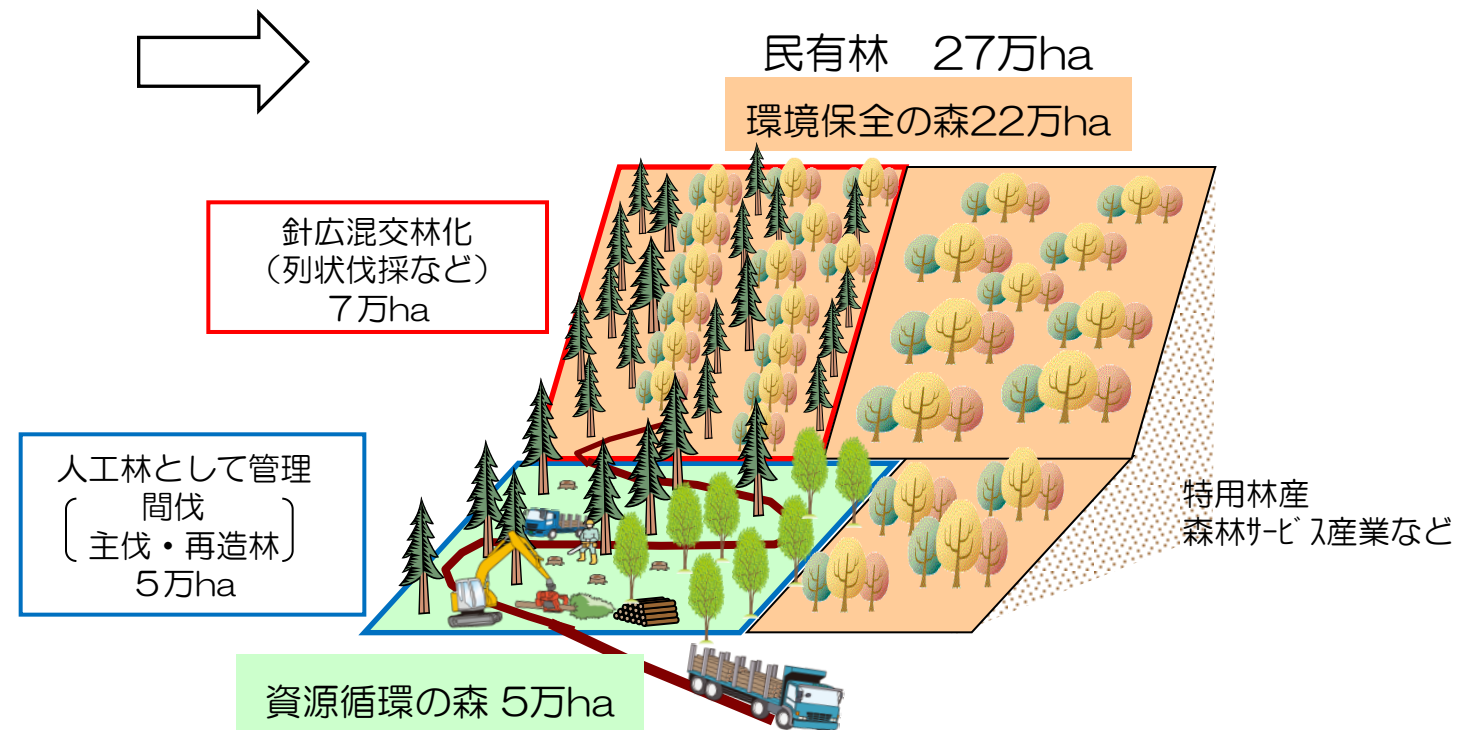
県内の私有林について、木材の持続的な生産を主目的とした「資源循環の森」と森林の多面的機能の発揮を主目的とした「環境保全の森」の2つにゾーニングし、それぞれに応じた森林整備を推進する [参考資料1]

	面積	主目的	ゾーニングの考え方
資源循環の森	5万ha	木材の持続的な生産	次の因子の基準(目安)をすべて満たす人工林 ・標高800m未満      ・傾斜35度未満      ・林道からの距離500m未満 ・普通林または禁伐・択伐の指定がない制限林(水源かん養保安林(兼種指定以外)など) ※但し、上記以外でも生育状況が良く、林道から近い森林などは「資源循環の森」とする
環境保全の森	22万ha	森林の多面的機能の発揮	「資源循環の森」以外の人工林、天然林

### 【これまでの姿】



### 【将来の姿】



## 【数値目標】

(H30)      (R6)  
県産材生産量      19万m<sup>3</sup> → 25万m<sup>3</sup>

## 【計画期間】

令和2年度から令和6年度まで(5年間)

# 1 森を活かすプロジェクト ～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

## ① 間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進

○主伐(更新伐、皆伐)による森林資源の活用と再造林による森林の若返りを促進

- ・コミュニティ林業地や団体有林、大規模所有者などまとまりのある森林を中心に更新伐を推進
- ・収益が見込める場所での再造林を推進 (ゾーニング「資源循環の森」)
- ・低コスト化につながる主伐・再造林の一貫施業を推進
- ・スギ、ヒノキに加え、広葉樹やカラマツなど多様な樹種による再造林を推進

○市町が主体となった間伐を推進

- ・森林環境譲与税等により、2条森林等これまで整備が進んでこなかった森林の整備を推進

○列状間伐を拡大

- ・県有林における列状間伐を市町有林、私有林へ普及、拡大

現在 (H30)

	面積	材積
主伐	199 ha	66 千m <sup>3</sup>
間伐	1,893 ha	124 千m <sup>3</sup>
計	2,092 ha	190 千m <sup>3</sup>



将来 (R6)

	面積	材積	内訳	面積	材積
主伐	255 ha	90 千m <sup>3</sup>	皆伐	120 ha	42 千m <sup>3</sup>
			更新伐	50 ha	18 千m <sup>3</sup>
			その他	85 ha	30 千m <sup>3</sup>
間伐	2,175 ha	160 千m <sup>3</sup>	定性	1,400 ha	97 千m <sup>3</sup>
			列状	625 ha	56 千m <sup>3</sup>
			譲与税	150 ha	7 千m <sup>3</sup>
計	2,430 ha	250 千m <sup>3</sup>		2,430 ha	250 千m <sup>3</sup>

# 1 森を活かすプロジェクト ～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

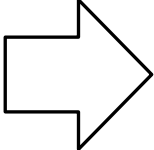
## ○苗木供給体制を整備

- ・新たな苗木生産者を確保・育成
- ・コンテナ苗生産のための施設を整備
- ・無花粉スギは生産を開始、拡大
- ・抵抗性クロマツは生産を開始

## ○低コスト造林、育林方法の確立・推進

- ・早生樹(センダン、コウヨウザン)の育林方法を確立
- ・造林・保育作業の低コスト化(低密度植栽、下刈り等の省力化)を推進 **[参考資料2]**
- ・福井の気候風土に適応した有用樹(広葉樹等)の選定と種苗生産技術の開発

苗木需要量		現状 (H30)		将来 (R6)	
植栽面積		45 ha		120 ha	
ha当たり本数		2,088 本/ha		2,000 本/ha	
必要本数		94 千本		240 千本	
苗木生産量					
自県生産量		56 千本		150 千本	
他県移入量		38 千本		90 千本	



# 1 森を活かすプロジェクト ～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

## ② 新たな手法の導入による施業集約化の促進

- 集落ぐるみで取り組むコミュニティ林業を拡大
  - ・集落の実情(面積や所有者数等)に応じた支援を実施
- 森林所有の集約化を推進 [参考資料3]
  - ・所有放棄、所有不明の恐れのある森林について、持続的に森林管理できる者に所有権を移転
  - ・小規模、分散的な所有森林について、交換などの手法により所有者単位で所有を集約

## ③ 生産基盤の整備

- ICT技術の活用による森林情報の高度化
  - ・航空レーザーやドローン等によりの確なゾーニングの実施や使える資源量を把握
  - ・取得情報をフル活用し施業提案や路網計画を効率化 (境界明確化、木材生産計画の策定)
  - ・GPSを活用して間伐などの前提となる森林境界明確化を推進
- 高性能林業機械の導入等を促進
  - ・林業事業者の生産規模等に応じた高性能林業機械等の導入、リースを促進
- 木材供給拡大のための路網(林道・作業道)を計画的に整備
  - ・木材の生産性を高めるため、森林資源や作業システムなど地域の実情に即した路網整備を推進
  - ・木材搬出の低コスト化を図るため、既設の低規格林道等の拡幅や改良を推進

# 1 森を活かすプロジェクト ～充実しつつある森林資源の積極的な利用～

## ④ 森林経営・管理を担う人材を育成

### ○競争力のある林業事業体を育成 [参考資料4]

- ・業務効率化や生産量拡大のための機械改良や設備強化を支援

### ○若者や女性が活躍できる環境を整備

- ・安全装備品の支援や労働安全講習会の開催により、安全対策を強化
- ・人材の流動化による通年雇用の確保
- ・林業PRや就業ガイドパンフレットなどで林業および林業事業体の魅力発信

### ○即戦力となる人材を育成

- ・林業カレッジにおいて即戦力となる人材を育成(短期コースの設定)
- ・主伐の施業手法やICT技術など今後の林業経営に必要な技術向上研修を開催
- ・コスト分析や集約化に加えて人づくりに関する研修を開催

### ○地域に根差した経営意欲の高い林家を育成

- ・自己所有林や集落山林などを継続的かつ適切に管理する自伐林家の育成
- ・木材利用や特用林産物の生産など森林資源を有効活用する林家の取組みを支援

## 2 木を活かすプロジェクト ～原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大～

### ① 木材加工流通体制の強化による県産材の利用拡大

○大規模工場の整備によるB材需要の拡大

・LVL※等のB材加工工場の整備

※木材を薄く剥いた単板を3枚以上、繊維方向が平行になるよう積層接着した製品のこと

○製材工場の水平連携による安定供給

・製材品目の特化による製造コストの低減および安定供給

○内装材等の付加価値製品の安定供給

・内装材および不燃・防腐木材、外構材の生産体制の強化

### ② 県産材の家づくりの推進

○住宅の新築およびリフォームへの県産材利用の推進

・構造材および内装材、家具・建具等への利用推進(PR強化)

・大手ハウスメーカーへの内装材・建具等での利用促進

・子供部屋の木質化により幼児期から木に触れ合う空間を創出

○建築士等を対象とした研修会の開催

・県産材住宅コーディネーターに対する研修会の開催

○プレカット工場と連携したパネル工法での利用の推進

・進展が見込めるパネル工法への県産材利用の推進



## 2 木を活かすプロジェクト ～原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大～

### ③ 公共および民間施設の木造・木質化等の推進

- 県・市町施設の木造・木質化、木製品の導入を推進
  - ・ 県産品活用推進会議等を通じた利用促進
- 企業等の民間施設の木造・木質化、木製品の導入を推進
  - ・ 企業等との木づかい協定等の締結
  - ・ 介護施設や倉庫、集合住宅等の中大規模施設の木造化
  - ・ インバウンドを意識したホテル、民泊施設の木質空間の創出
- 中大規模施設等の木造建築設計者の育成
  - ・ 建築士等との連携による木造設計チームを組織
  - ・ 大学生や若手建築士を対象とした次世代木造建築士の育成

### ④ 攻めの県産材の販路拡大

- 東京都など都市圏の販路を拡大
  - ・ 県外の民間施設における県産材利用の推進
- アジア圏など海外の販路を開拓
  - ・ 展示会への出展や個別商談会の実施
  - ・ 大手建材商社等との連携による販売力強化
  - ・ 海外に支店等を持つ県内企業を活用したバイヤーの確保

### ⑤ 新たな分野における利用拡大

- 異業種との協働による県産材商品の開発
  - ・遊具・玩具、木質空間のパッケージ化等の新商品開発を推進
- 炭素繊維との複合化など新たな加工技術の開発
  - ・LVLや集成材と炭素繊維との複合化等による新製品の開発

### ⑥ 木質バイオマスの利用

- 木質バイオマスボイラーの導入による熱利用の推進
  - ・温泉施設や公共施設等における熱利用の推進
- 木質バイオマス発電施設への燃料の安定供給
  - ・大野市および敦賀市の発電施設への燃料の安定供給

### ⑦ みんなでつかおう「ふくいの木」運動

- 木づかいイベントの開催による県産材利用の普及
  - ・木づかい推進月間(10月)にイベントを開催
  - ・ショッピングセンター等での木づかいキャラバンの実施
  
- 木づかいの機会創出および利用意識の醸成
  - ・建築士との連携による小学生を対象とした木づかい塾を開催
  - ・木製遊具の整備および保育園等への貸し出し
  - ・総合グリーンセンターに木育施設を整備
  
- ふくいの木使ってもらい隊による木造・木質化の普及
  - ・企業等に対する県産材利用の普及活動を実施

#### ① 森林サービス産業による山村の活性化

##### ○森林サービス産業の創出・拡大

- ・里山資源を活用した様々なライフステージに応じた新たな森林サービスの創出
- ・山間の空き家などを活用したふくい森のオフィスで都市部との交流を促進

##### ○里山を活用するふくいSatoyamaトレイルの推進

- ・山の史跡等を巡るガイド付きトレイルなど、歴史・健康等各種ニーズに応じたトレイルの拡充・推進

##### ○ふくいの森林の魅力を情報発信

- ・SNSなどの活用やガイドマップの作成等により、県内外やインバウンドの観光客を誘客
- ・森林サービス産業に取り組む団体などを対象とした情報交換会や研修会の開催

#### ② 地域資源である特用林産物のブランド力強化

##### ○県産ブランドきのこの販売促進

- ・香福茸では規格ごとの販売戦略による販路の拡大やSNS等による情報発信の強化
- ・極上マイタケでは品種改良による新品種の開発と販路開拓

##### ○地域ならではの品目の振興

- ・地域で生産される品目・商品について県外などへの販売促進、原材料の安定的確保や後継者育成を推進(ササ、シキミ、クロモジ、椿油、菊炭など)

##### ○全国に誇れる特用林産物の生産技術を継承

- ・全国に誇れる本県の特用林産物の生産技術を後世に残すため、知名度向上のためのPRや後継者育成研修の開催、原料供給体制を強化(オウレン、くず、研磨炭、うるし、コウゾ、ミツマタなど)

### ③ 災害等から暮らしを守る森づくりの推進

#### ○事前防災・減災対策による災害に強い森づくりを推進

- ・航空レーザ測量により得られる3次元データを活用して、山地災害の危険性の高い箇所を抽出・把握し、重点的に予防対策を推進
- ・治山施設の機能を維持増進するため、点検・診断の結果に基づき補修や機能強化を実施
- ・防災意識の向上を図るため、県内全域で治山現地研修会や山林保全監視モニター研修会を開催

#### ○獣害や病虫害に強い森づくりを推進

- ・針広混交林化等により獣害や病虫害に強い多様性のある森林へ誘導
- ・猟友会と森林組合等が連携した効率的なシカの捕獲活動を進め、食害・剥皮害を軽減
- ・松くい虫の着実な防除実施や福井県が開発した抵抗性マツの植栽による松林の再生を促進

#### ④ 緑と花の県民運動を永続的に展開

○全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を推進

- ・6月第1日曜日の森づくりの日に、緑と花の県民運動を推進するための中心的なイベントを開催
- ・木を伐って使うことが元気な森づくりにつながることを普及するため、木づかい推進月間における取組みやDIY・クラフト講座等の木づかい運動を強化 [再掲]
- ・総合グリーンセンターに木育施設を整備し、ふくいの木の良いことや木の文化を学ぶ機会を創出 [再掲]

#### ⑤ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進

○駅や観光地周辺を中心に県内全域で花いっぱい運動を拡大・強化

- ・観光の拠点となる駅や観光地周辺において、花づくりの団体を育成し継続的な活動を推進
- ・花を観て楽しめる場所として、オープンガーデンや花の景観の情報を発信
- ・体験講座や技術研修、出前研修を開催し、地域における花づくりを促進